

## 別添 3-1 鉄骨造用チェックシート





# 鉄骨造 (S造)




外部調査

【災害時調査シート】 《第\_\_回目チェック》 作成日時：平成\_\_年\_\_月\_\_日 \_\_時\_\_分

## 第1次

## 外部から一見して危険かどうかの調査

### (1) 外部から一見して危険と判断される

	調査項目	被害例	はい : ○ いいえ : ×	○の場合の対処 応急対応等
構造体の傾き	1 避難建物全体、又は一部が崩壊している。 もしくは、1層、又は2層以上の階層がつぶれている。			危険なため 建物の使用不可
	2 避難建物の基礎が崩壊している。 又は、上部構造と基礎がずれている。			危険なため 建物の使用不可
	3 避難建物全体、又は一部が傾斜しているのがわかる。			危険なため 建物の使用不可
その他	4 隣接崖地や地盤等が崩れ、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	5 隣接建築物が崩れ落ち、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	6 隣接建築物から器物(窓枠や外壁、看板、屋外機器等)が落下して避難建物を破壊(崩壊)している。			危険なため 建物の使用不可
備考欄				

※「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合(全て「いいえ:×」)は、  
第2次 余震による危険性の調査へ移行する。

施設名称：

記入者：(所属) \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

連絡先： \_\_\_\_\_

# 鉄骨造 (S造)

外部調査  
 内部調査

【災害時調査シート】 《第\_\_回目チェック》 作成日時：平成\_\_年\_\_月\_\_日 \_\_時\_\_分

## 第2次

## 余震による危険性の調査

### (2) 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体

	調査項目	被害例	はい : ○ いいえ : ×	○の場合の対処 応急対応等
隣接建築物・周辺地盤	① 隣接建築物や太い電柱等が避難建物の方向へ傾いて倒れそうである。			危険なため 建物の使用不可
	② 避難建物の方向へ崩れそうな崖地や山林がある。			危険なため 建物の使用不可
避難建物の構造躯体	③ 窓枠が変形、又は損傷している。			危険なため 建物の使用不可
	④ 避難建物全体、又は一部が傾いている。 ※建物1階から順番に各階を数カ所ずつ調査する。	床に置いたビー玉が転がる  目安 1/300以上の傾斜		危険なため 建物の使用不可
	⑤ 傾いている階があり、その階が最上階、又は上階が1層のみの場合、その階の柱の傾きが1/100以上ある。 (下げ振り等を利用し確認)			危険なため 建物の使用不可
	⑥ 傾いている階があり、その階の上階が2層以上の場合、その階の柱の傾きが1/200以上ある。 (下げ振り等を利用し確認)			危険なため 建物の使用不可

※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合 (全て「いいえ : ×」) は、第2次 (3) 落下物の調査へ移行する。  
1つでも○がある場合は建物の使用不可。

施設名称：

記入者：(所属) \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

連絡先： \_\_\_\_\_

# 鉄骨造 (S造)

外部調査  
 内部調査

【災害時調査シート】 《第\_\_回目チェック》 作成日時：平成\_\_年\_\_月\_\_日 \_\_時\_\_分

## 第2次

## 余震による危険性の調査

### (3) 落下物の点検

	調査項目	被害例	はい : ○ いいえ : ×	○の場合の対処 応急対応等
屋根	① 屋根材がずれている。 又は、破損して落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
窓	② 窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
内・外装材	③ 【湿式壁 <sup>(注1)</sup> の場合】 モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
	④ 【乾式壁 <sup>(注2)</sup> の場合】 外壁や内・外装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
機器	⑤ 看板・機器（タンクやクーラー用の屋外機器など）が傾斜している。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
外階段	⑥ 屋外階段が傾斜、破損している。			屋外階段周辺を避けて、建物の使用可能
天井	⑦ 天井面に歪みや隙間、破損等が見られる。 又は、壁際と天井の隙間(余裕)や接合部が、平常時と比べて移動・破損している。  ※ホール吹抜け等の高い天井から先に調査し、各室の天井を調査する。			○がある部屋は、危険なため使用不可
備考欄				

※ 全て「いいえ：×」の場合は、建物の使用を開始。  
「はい：○」がある場合は、その場所を避けて建物の使用可能。

施設名称：

記入者：（所属）\_\_\_\_\_ 氏名：\_\_\_\_\_

連絡先：\_\_\_\_\_

(注1) 湿式壁とは、モルタルやタイル貼りの壁。

(注2) 乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁。

# 鉄骨造 (S造)

〈構造躯体が調査可能な場合、以下の調査項目を確認〉

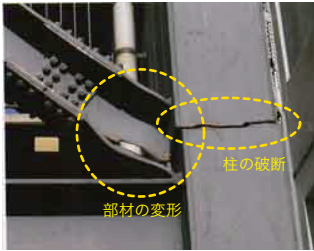
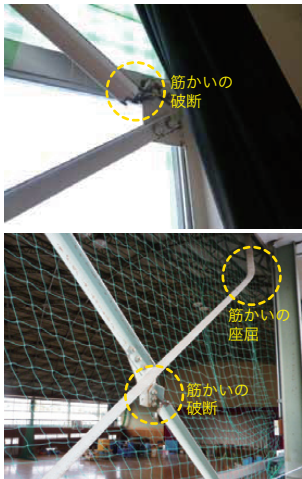


【災害時調査シート】

《第\_\_回目チェック》 作成日時：平成\_\_年\_\_月\_\_日 \_\_時\_\_分

## 構造躯体用

## 余震による危険性の調査

### (4) 被害最大階の構造躯体調査

	調査項目	被害例	はい : ○ いいえ : ×	○の場合の対処 応急対応等
被害最大の階 (階)	① 柱や柱を固定する構造上重要な部材が変形、又は破断している。			危険なため 建物の使用不可
	② 柱と柱の間の筋かい※が被害最大階全体の20%以上切れている。  破断本数            a) ____本 全体筋かい本数   b) ____本 破断率   a)×b)×100 ____%  ※柱と柱の間に斜めに入れて建築物や足場の構造を補強する部材。			危険なため 建物の使用不可
	③ 柱と梁の接合部やボルト、部材等が破壊されている。			危険なため 建物の使用不可
	④ 柱の根本が著しく破壊※されている。  ※柱の固定の力が期待できない程度に著しく破壊されている。			危険なため 建物の使用不可

※「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合(全て「いいえ:×」)は、建物の使用可能。  
1つでも○がある場合は建物の使用不可。

施設名称：

記入者：(所属) \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

連絡先： \_\_\_\_\_

(注3) 筋かいとは、柱と柱の間に斜めに入れて建築物や足場の構造を補強する部材。